

**平成 30 年度第 1 回松阪地域定住自立圏共生ビジョン懇談会
議事録**

日 時 平成 30 年 5 月 23 日（水曜日）14 時 00 分～15 時 50 分
場 所 松阪市役所 議会棟 2 階 第 3・第 4 委員会室
出席者 岩崎会長、鈴木副会長、野呂委員、奥田委員、川口委員、達井委員、酒井委員、
竹川委員、渡邊委員、山下委員、西口委員、筒井委員
事務局 加藤企画振興部長、刀根経営企画課長、川上政策経営係長、齋田政策経営係員、
辻本大台町企画課長
各事業担当課（15 人）
傍聴者 2 人（内報道 2 人）
事 項 1.定住自立圏構想の取り組み状況について
・平成 29 年度事業実績について
・平成 30 年度事業計画について
2.その他

【議事録】

（14 時 00 分開始）

事務局：

ただいまより、平成 30 年度第一回松阪地域定住自立圏共生ビジョン懇談会を開催させていただきます。

本日はお忙しいところ、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

それではまず始めに、先日郵送にて送らせていただきました本日の資料の確認をさせていただきます。

資料 1 定住自立圏 設置要綱

資料 2 定住自立圏構想について

資料 3 基本目標進捗確認シート

資料 4 事業報告シート

また、本日参考資料（共生ビジョン）を机上配布させていただきました。

この懇談会は公開とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

本日の懇談会ですが、12 名の出席を確認しており、「定住自立圏設置要綱」第 6 条第 2 項に規定しています、会議の成立要件である「委員の半数以上の出席」をいただいておりますので、本日の会議が成立していることをご報告させていただきます。

では、議事にはいります。この後の進行につきましては、会長に進行をお願いさせていただきます。

会長：

それでは本年度のビジョン懇談会を開催させていただきます。

昨年5月以来ご無沙汰しております。

事業の報告を受けながら、忌憚ない意見をいただければと考えております。

終了時刻は午後4時を予定しております。

それでは、事項書に沿って進めていきます。

事項書の1の平成29年度の事業実績と平成30年度の事業計画を、各担当課より一括して報告をいただき、随時質問を受け付けていきます。

資料3の基本目標進捗シートの現状値・実績値、資料4の7の連携項目に基づく、22事業の事業報告シートにおける平成29年事業実績と平成30年度の予算を元に進めていきます。では、それぞれの分野についての報告をお願いします。

各事業担当課職員より順に説明。

- ①一次救急医療体制の維持・拡大充実（健康づくり課）
- ②二次救急医療体制の維持（健康づくり課）
- ③保健衛生業務の連携強化（健康づくり課）
- ④介護保険の要介護認定等に係る審査の充実（介護保険課）
- ⑤病児・病後児保育広域対応事業の維持（こども未来課）
- ⑥「徘徊SOSネットワークまつさか」の広域化（高齢者支援課）
- ⑦差別のない地域社会づくりの推進（学校支援課）

①～⑦の分野について各担当課より説明

会長：

医療・福祉など3つの政策分野について説明をいただきました。

何か質問はありますでしょうか。

委員：

「資料4 5P」の平成29年度の取組について質問です。

大規模災害時における防災活動とありますが、昨年度開催された「あんどうりす氏のアウトドア防災講演」について、子ども・親子向けの防災講演会であったが、親子の参加が少なかったように感じた。防災・福祉部局でタッグを組んで開催できないのか。

事務局（こども未来課・防災対策課）

チラシを保育園へ配布するなど、連携は行っていた。

今後も防災について様々な部局と連携しながら啓発活動を継続していく。

委員：

「資料4 7P」 事業費が91万9千円と少ないがなぜか。

事務局（こども未来課）：

誤植であり、正しくは919万円である。

委員：

徘徊 SOS メールは誰に向けて発信されるメールであるのか。

事務局（高齢者支援課）：

広く市民に向けて、配信していくものであり、徘徊 SOS メールに登録された方に向けて発信されるものである。また、認知症サポーター要請講座に参加していただいた方には徘徊 SOS メールに登録をお願いしている。

会長：

「資料3 事前登録者数」の基本目標が77.7に下がっているがなぜか。

事務局（高齢者支援課）：

今年度から早期発見の定義について指標の見直しを行った。

早期発見について、昨年までは「24時間以内」を早期発見としていたが、今年度よりメールを流したその日に発見した場合を早期発見と定義を見直した。

事業が後退しているわけではないが、指標をより厳格にしたため数値が下がっている。

会長：

他に質問はないでしょうか

会長：

なければ、私から。

指標の見直しはどのタイミングで行うことが可能であるのか。

事務局（経営企画課）：

指標については、最適でない場合は即座に変更が可能である。

会長：

「いつでも」という風に理解しました。

「資料3 教育」について基本目標と KPI の設定が逆であるように思う。

KPI が満足度で基本目標が参加学校数となっているが、参加学校数があり、そのうえで満足、不満足を図るべきであるように感じるため、KPI の変更を検討してください。

また、高齢者支援課は KPI の定義を変更しているが、基準は統一されていないと KPI の意味がないため、可能であれば以前の定義の指標の数値も公表するよう検討してください。

事務局（経営企画課）：

検討します。

会長：

では続いての分野の報告をお願いします。

⑧企業誘致及び企業間連携の推進（企業誘致連携課）

⑨広域連携による就労支援、雇用促進（商工政策課）

⑩地域資源を活用した地場産品の振興（地域ブランド課）

※欠席のため経営企画課にて説明

⑪不法投棄防止対策の推進（清掃事業課）

⑫相互応援体制・広域避難体制の整備（防災対策課）

⑧～⑫の分野について各担当課より説明

会長：

産業の振興や環境、防災の分野について報告をいただきました。

質問があればお願いします。

委員：

「資料4の12P」の企業案内について質問です。

企業案内の内容について、企業毎さまざまなバリエーションがあるのか、同一の内容で記載されているのか。

事務局（商工政策課）：

内容については各社に構成を依頼しているが、基本的な項目を載せると、紙面の都合上似た内容になる。

また、企業案内については、会社があることを知ってもらうことが目的であるため、それ以上の内容は現行のものには載せていない。

委員：

今は企業に魅力があるか、自分を生かしてくれるか、などが重要視されている時代である。高校生に必要な情報が載っているかを高校生に確認するなどの手段を講じてほしい。

事務局（商工政策課）：

今年度中に A4 へのサイズアップとカラー化を考えているので、その際により魅力的な紙面になるように変えていく予定である。

会長：

他はよろしいか。

なければ私から。

報告いただいた項目について、30 年度の事業予定に書かれている内容の具体性と抽象度がまちまちであり、指標のレベルが違う。

同一の資料であるので、指標のレベルの調整が必要である。

事業費が未定になっている事業があるが、折り返し地点が過ぎているのにもかかわらず未定であるのがよくない。今後検討をお願いします。

それでは最後の分野について報告をお願いします。

- ⑬圏域で連携した道路網の整備促進（土木課）
- ⑭地域づくり団体のネットワーク化（地域づくり連携課）
- ⑮観光戦略の広域化（観光交流課）
- ⑯行政情報番組の放送及び共同制作（秘書広報課）
- ⑰職員合同研修事業の推進（職員課）

⑬～⑰の分野について各担当課より説明

会長：

市町の区域をまたがるような形で課題がある分野について説明をいただきました。

それでは質問があればお願いします。

委員：

「資料 5-4 16P」道路促進事業の多気バイパスについてですが、平成 29 度の事業取組について、標記が見にくいので、市民に見られることを意識して考えてください。

また、平成 29 年度の松阪多気バイパスについて、3 月 18 日に開通したあと、自治会連合会に話を聞きにくるはずであったが、まだ聞きに来ていただけていない。

この場でする話ではないので詳細については後日で結構であるが、きちんとしていただくようにお願いします。

事務局（土木課）：

後日返答いたします。

委員：

移住交流についてここ 3 年ですいぶん状況が変わっているように感じているが、インバウンドと、移住交流は統計的に増えているか減っているか、統計的に把握しているのか。

事務局（観光交流課）：

インバウンドについて、現在圏域としての統計はありません。

観光協会を訪問した外国人の数は把握しているが、圏域内を訪問した外国人の統計がありません。

そもそも、現時点では有効な統計の取り方がないため今後模索していきたいと考えています。

事務局（経営企画課）：

移住については松阪市としては企画振興部で行っている。

UIJ ターン等、いろいろ形態はあるが、移住について 1 市 3 町の圏内での連携はとっておらず、各市町で個別に行っている状況である。

委員：

移住について

2 年前より県の地域づくり支援課が三重テラスにて、都市圏での移住促進についての相談を

受け付けている。

また、南部地域を拠点とした空き家対策も行っている。

委員：

インバウンドについて

海外のお客様は増えているが数を把握するのは難しい。

観光案内所にくるお客様については把握している。

平成 30 年 3 月末で 1,000 人を超え、一日 3-4 人くらいである。

観光協会が把握している中で、海外のメディアの取材が増えている。

平成 26 年度は 4 件 平成 27 年度：17 件 平成 28 年度：14 件 平成 29 年度：34 件

アジア圏が多い。

国内のメディアの露出も増えているが、国内のメディアは取材先に直接アポイントをとるため統計を把握することが難しい。

委員：

大台町では外国人専門のゲストハウスがあり、滞在型の外国人のかたが多い。

古民家を改築したゲストハウスが人気である。

英語は話せないが、現在はスマホである程度翻訳できるため大きな問題は起こっていない。

熊野古道の看板なども、地元住民が（英語が難しいので）ローマ字で案内を追記している。

観光協会も大台ツーリズムとして集客している。

このような状況であるが、よりツーリズムでの集客を増やしたいので、いい案があれば教えてください。

会長：

情報の持ち寄りも会の目標の一つなので、今後も忌憚なく様々な意見や地域の現状について、報告していただき、目に見えるような形で成果をだしていきいたい。

大台町、また他の市町においても、インバウンドの集客や移住についての意見があれば、情報交換をしましょう。

他よろしいか。

これで全ての分野の報告が終わりました。

改めて全体を通して、質疑などよろしいでしょうか。

なければ、私から。

毎年、首長会議が行われていると思うが、その場で出たトップの考えをこの場においても共有できればと思いますがいかがでしょうか。

事務局（経営企画課）：

次回より、推進会議の内容については冒頭に説明をさせていただく。

今回の推進会議において、大きな共通課題として取り上げられたことは防災についてであった。

一市三町の防災の合同図上訓練の必要について各首長ともに強く感じていたため、各市町の防災担当課と県の防災事務所で合同の会議を執り行う予定である。

会長：

次回からは推進会議の報告をお願いします。

事務局から何か、その他の事項等ありましたらお願いいたします。

事務局（経営企画課）：

長時間にわたり、ありがとうございました。今後の会議日程についてであります。連携項目の追加・削除などの大きな動きがなければ、今年度のビジョン懇談会は本日のみのとさせていただきます。

今後、懇談会の開催が必要となった際には、会長とも調整のうえ、決定しご案内させていただきたいと思います。

会長：

ではこれで本日の懇談会を終了させていただきたいと思います。どうもありがとうございました。

（15 時 50 分終了）